



プレミアリーグの 全日程が終了

残留に向け大詰めを迎えた高円宮杯プレミアリーグ。3戦全勝が残留への条件となる新潟U-18でしたが、選手たちは目前の試合に向けて準備を重ねてきました。

迎えた16節の流通経済大付属柏戦は、立ち上がりは相手の勢いと、自分たちの硬さからか思うようなゲームが進まず苦しい展開に。それでも徐々に落ち着きを取り戻し自分たちのできることが増えてきてチャンスも作れるようになり、前半を0-0で折り返しました。

迎えた後半は、お互いチャンスを作るもの決めきれずに膠着状態が続きましたが、均衡を破ったのは新潟U-18でした。CKから待望の先制点を手にします。その後もカウンターからたびたび相手ゴールを脅かします。チャンスを決めることはできませんでしたが、1-0で試合終了。強豪を相手に久々の勝利を手にして、次へと繋げました。

続く第17節の大宮アルディージャ戦も勝つていない状況での試合となりました。そのプレッシャーからか、立ち上がりにミスから失点をしてしまい、苦しい状況となりその後もミス等で追加点を取られて前半を0-3で折り返しました。

後半、新潟U-18はメンバーを変え、立ち上がりから攻め続けてチャンスを作りましたが、ゴールに繋がれませんでした。チャンスを逃すと失点を重ねてしまい、試合終了の笛。ついにプレミアリーグ降格が決定してしまいました。1年間残留を目標に戦ってきましたが、達成にはいられず、残念な結果となってしまいました。

最終戦の第18節柏レイソル戦は、今シーズン最後の公式戦となりました。選手たちは自分たちの今年やってきたことをしっかりと表現しようと試合に臨みました。

試合は相手のリズムで進む苦しい展開に。ミスからの失点で悪い流れに拍車がかかってしまいました。選手たちは最後まで粘り強く戦いましたが、得点を奪うことができずに0-2の敗戦で、リー

グの全日程を終えることに。

今年1年間、サポーターの皆様には本当にたくさんのご声援をいただきました。開幕戦では、アルビコールを送っていただき、たくさんの方のエネルギーと勇気をいただきました。その後も、苦しい試合ばかりでしたが、いつも温かい熱い応援でサポートをしていただきました。おかげで、選手は常に全力で戦い続けることができました。

この1年間、選手・監督・スタッフは貴重な経験をさせていただきました。本当にありがとうございました。結果で恩返しができませんでした。が、今後もプレミア復帰に向けて励んでいきます。応援、よろしく願っています。



全日本ユースに出場

高円宮杯第8回北信越ユース(U-15)サッカーリーグ2016を2位で終えたアルビレックス新潟U-15は、昨年12月に高円宮杯第28回全日本サッカーユース(U-15)選手権大会に北信越地域代表として出場しました。

1回戦の相手は、関東地域代表の湘南ベルマーレU-15でした。試合は残念ながら0-4で敗れ、初戦敗退となりましたが、選手たちは全員が「丸」となり最後まであきらめずにプレーしてくれま

した。

中学3年生の選手たちにとっては、これが最後の公式戦となりました。次のステージでも、アルビレックス新潟の選手らしく最後まであきらめないプレーで、さらなる飛躍を果たしてくれることでしょう。



JFAエリートプログラムに 2選手が参加

JFAエリートプログラム日韓交流戦にアルビレックス新潟U-15の選手が選出されています。10月26日から28日まで参加したのは小田奏選手。13歳以下の選手としては高橋蒼天選手が選出され、12月13日から18日まで参加しました。

両選手はともに「国内では経験できないプレッシャーがあったと海外遠征ならではの経験を積み成長のきっかけをつかんでいます。この交流戦で得た経験を活かし、次なる活躍をしてくれることを期待しましょう。」



U-15長岡は 3年目のシーズンへ

2016シーズンはチーム発足2年目のシーズンとなり、総勢36名(U-14が20名、U-13が16名)での活動になりました。

今シーズンは大会によって、上の学年との試合や同学年との試合となりました。どんな相手でも試合内容と結果にこだわりの大会に臨みました。U-14は昨年の経験を生かし、新潟県3部リーグ戦ではグループリーグで優勝し、2部リーグへの昇格を決めました。U-13は上位リーグには進出したものの、残念ながら北信越リーグへの昇格は果たせませんでした。

来シーズンはチーム発足3年目となり3学年がそろいます。将来、トップチームで活躍するという目標のために、新シーズンは大変重要な年になります。毎日を大切にトレーニングに励んでいきますので、今後とも応援よろしく願っています。



全日本少年サッカー 決勝大会

アルビレックス新潟U-12は、昨年12月26日から29日にかけて行われた、第40回全日本少年サッカー大会決勝大会に出場しました。

まずは、4チーム総当りの予選リーグを突破することを目標に戦いましたが、北海道コンサドーレ札幌に0-1、鹿島アントラーズに0-4、そしてエストレージャスに0-4という結果に終わり、残念ながら予選リーグ敗退となりました。

今回の大会に臨むにあたっては「チーム一体となって戦うこと」を選手たちに求めました。サッカーはチームスポーツであり、チームが勝利するため個人個人が何をすべきかを常に考え、それを実行していく必要があります。日常の練習においてそうだったことに取り組んできましたが、全国レベルのチームを相手にすると自分たちの思い通りにはプレーさせてもらえませんでした。

相手のプレッシャーを受けたときに慌てないように技術を磨く「ゴールを奪う」「相手のボールを奪う」ためにどんなプレーをしたらいいのか。サッカー



への理解を深め、それを実行することがまだまだ必要だと感じた大会でした。今回、得たことを日常の練習に落とし込めるかが、今後の成長の鍵になります。スタッフ、選手が「丸」となって日々のトレーニングに励んでいきたいと思っています。今後もアルビレックス新潟U-12に温かい声援をよろしくお願いいたします。



全日本女子ユースに 出場

新年早々の1月3日、アルビレックス新潟レディースU-18がJOCジュニアオリンピックカップ第20回全日本女子ユース(U-18)サッカー選手権大会に出場しました。

大阪府のJGREEN堺で行われた大会の1回戦は、INAC神戸レオネッサ。レディースのトップチームに大きな壁となつて立ちはだかるINAC神戸のアカデミーチームです。強敵が相手の試合となりましたが、前半を0-0で折り返すと、後半に先制。このリードを守り切つて見事に2回戦進出を果たしました。

翌日行われた2回戦では、地元セレッソ大阪ガールズとの対戦。この試合でも勢いに乗つていきたいところでしたが、前半だけで3点を失つてしまいました。迎えた後半、まずは1点をと懸念の戦いを見せますが、攻めに出たところを突かれ失点を重ねてしまいました。

最後まで走り、闘いましたが、残念ながら相手のゴールを割ることはできません。試合は終了。2回戦敗退で大会を去ることになってしまいました。この敗戦をさらなる成長に繋げていけるように、今年もトレーニングから集中して取り組んでいきます。



鳴尾直軌新監督が 就任

2007シーズンのアルビレックス新潟U-18の監督に、昨季までアルビレックス新潟S(シンガポール)で監督を務めた鳴尾直軌氏が就任しました。

鳴尾新監督は岩手大学を卒業後、モンテディオ山形、ソニー仙台でプレー。1999シーズンにアルビレックス新潟に加入し、エースストライカーとして2シーズンに渡りチームをけん引してくれました。その後、ジユビロ磐田、サンフレッチェ広島、サガン鳥栖でプレーを続け、2004年に現役選手としての生活に別れを告げました。

現役引退後は、新潟で指導者としてのキャリアをスタートし、06年にはアルビレックス新潟レディースの監督に就任。当時はなでしこリーグ2部に所属していたチームを優勝に導き、1部昇格を果たしています。

08年からは海を渡り、アルビレックス新潟・Sを指導。09年には同チームの監督に就任し好成績を収めました。12年には地元岩手のグルージャ盛岡の監督となり、4シーズンに渡ってチームを率いました。

そして、昨季アルビレックス新潟・Sの監督に復帰すると、悲願のSリーグ初制覇を果たしただけでなく、同国リーグ初となる4冠(Sリーグ、シンガポールリーグカップ、シンガポールカップ、シンガポールチャリティシールド)制覇という快挙を成し遂げたのです。



スタッフも 続々と決定

鳴尾監督とともに選手の成長を助けるスタッフにも、新たな顔が加わることになりました。昨季まで新潟レディースのコーチを務めていた野本安啓コーチが、今季からU-18のコーチに就任します。

地元新潟出身の野本コーチは、02年にジェフユナイテッド市原でプロとしてのスタートを切ると、コンサドーレ札幌やファジアーノ岡山などでプレー。12年、ブラウブリッツ秋田でのプレーを最後に引退しました。引退後は地元新潟に帰り、13年にジュニユース(現U-15)のコーチに就任、14年からは3年に渡ってレディースのコーチとして陰ながらチームを支えてきました。

また、フィジカルコーチには中村圭介氏が就任。98年から99年には、当時J2リーグを戦っていたトップチームのフィジカルコーチとして活躍していた中村コーチ。新潟での指導は18年ぶりとなりますが、Jクラブのトップチームとアカデミー、大学など、非常に豊富な経験を積んでいるだけに、選手たちにとっては頼もしい存在となります。



入江監督が U-15の監督に就任

昨季までアルビレックス新潟U-18を指導していた入江徹監督が、U-15の監督に就任しました。一昨年、クラブ史上初となる高円宮杯プレミアリーグへの昇格を果たした入江監督。

昨季、残念ながらプレミア残留を勝ち取ることはできませんでしたが、国内ユース年代最高峰の舞台で戦った経験を、一つの力添えで選手たちに伝えていくことになります。

08年のユース(現U-18)コーチ就任から長きにわたって、育成年代を指導しているだけに、トップチームにつながる道を確かなものにしていくことでしょう。



工藤GKコーチが就任 氏原コーチ

2001年、02年とアルビレックス新潟で活躍した氏原良二氏が、アルビレックス新潟U-15のコーチとしてクラブに戻ってきました。

10年にザスパ草津で現役を引退してからは、名古屋グランパスのスクール、U-15チームの指導にあたっていました。15年ぶりに新潟の地で若い選手たちの育成にあたります。U-15チームのGKコーチには工藤尚人氏が就任。強豪・鹿島アントラーズのアカデミー組織で9年間、指導者としてのキャリアを積んでいるだけに、選手たちに新たな刺激を加えて、成長を後押ししてくれることでしょう。

入江監督をサポートするスタッフも加わり、さらなる飛躍が期待されるアルビレックス新潟U-15に温かいご声援をお願いします！



黒河貴矢コーチ スクールコーチに就任

2016シーズンまでトップチームのGKとして活躍した黒河貴矢選手が引退をされ、このたびアルビレックス新潟サッカースクールコーチに就任することが決定いたしました。

黒河貴矢コーチは、2008シーズンから9シーズンに渡り、アルビレックス新潟のGKとしてチームに貢献してきました。

2017年度からは、アルビレックス新潟サッカースクールの新人コーチとして、長年培ってきた選手としての経験をスクール生へ還元しながら、若年層からの育成、新潟のサッカー人口の拡大、そして何よりサッカーの楽しさを子どもたちへ伝えていきたいと思っています。

また、GKとしての経験も豊富ですので、GKを目指す子どもたちや、すでにGKとして活躍をしている子どもたちのさらなる成長を目指す「ゴールキーパークラス」も企画していきたいと思っています。

これからの黒河貴矢コーチの活躍にご期待ください！

■黒河貴矢コーチ

このたびアルビレックス新潟サッカースクールコーチになりました黒河です。子どもたちと笑顔で楽しく、そしてサッカーが上達出来るように僕も頑張っていきたいと思っています。これから宜しくお願いいたします！

保護者向け特別イベント 『パパママ・サッカースクール』を開催！



11月27日(日)、今回は「片淵浩一郎監督(当時)」をゲストに迎え、保護者向け特別サッカースクール「パパママ・サッカースクール」を開催しました！

当日は、定員の25名を大幅に超える33名の方からの応募でしたが、片淵監督の「断ることは申し訳ない」とのこと、枠を拡大しての開催となりました！

片淵監督のサポートとして、内田コーチだけでなく、急遽、不老コーチ、渡邊コーチも参加。

今回の「パパママスクール」では、いつもスクール内で子どもたちが行っているトレーニングを保護者の方から体験いただくことで、サッカーやトレーニング内容へのさらなる理解を深めていただくとともに、日常の生活へフィードバックいただくことで、スクール内外を問わず、保護者の皆様と一緒になって、より効果的な成長を子どもたち促すことを目的としています。

スクールでは、片淵監督の熱いこもった指導や、ジョークを交えながらの進行に、難しいながらも楽しみな実践する保護者の姿も見られ、終始会場は笑いが絶えませんでした。

トレーニングの合間には、保護者の皆さんからの質問に、片淵監督と内田コーチが答える「トークセッション」も開催。

日常、保護者の方々が心配、不安に思うことや、子どもたちへのアドバイスの方針、サッカーをする子どもたちの姿勢についての疑問などに対し、片淵監督、ときに

は内田コーチが答えます。

片淵監督もサッカーをする子を持つひとりの親としての実体験や、酒井高德選手を含め、多くの選手を輩出した長年の指導経験を交えながら、ひとつひとつ丁寧に答えてくれました。

その中でも、印象に残った言葉は「まずはサッカーを楽しむこと」。

出来なかったことを責めるより、まずは子どもたちを「認めてあげること」「褒めてあげること」で、「サッカーは楽しい」という気持ちへ繋がります。子どもたちは、その「楽しい」という気持ちが次なるモチベーションとなり、サッカーの小さなステップをひとつずつ登ることが出来る、つまりは出来る事がひとつずつ増えていく、と。

ただし、ただ「楽しい遊び」ではなく、「サッカーにつながる動き、プレーであること」の重要性も伝えていました。

楽しみながら遊び感覚で行っていたことが、サッカーが必要とされる動きであり、プレーであることで、いつの間にか実践出来るようになっていく。長らく、アルビレックス新潟の育成に携わってきた片淵監督の言葉は、まさにアルビレックス新潟サッカースクールの指導方針です。

参加をされた保護者の方々は、実際に体験することで、まさに実感をしていただけたと思います！

そして、最後の試合は、楽しみ要素が加えられた特別ゲーム！

実際にスクールの中でも良く行い、またトップチームの選手たちでも行う特別ルールの試合です。

最初は緊張した面持ちだった保護者の方も、トレーニング、そしてゲームが進むにつれてドンドン声が出るようになり、最後は子どもたちのように感じられるほど、一生懸命、サッカーを楽しんでいる姿が見られました！

最後は、お父さん、お母さんを応援していた子どもたちも交えての記念撮影。

参加をされたスクール生、ならびに保護者の皆様、お疲れ様でした！

今後とも同様な機会を設けたいと思いますので、お楽しみに！



お申し込み・お問合せ



TEL **0800-222-3016**
アルビレックス新潟サッカースクール

新潟市中央区美咲町2-1-6(本部事務局)

【営業時間】月～金/13:00～20:00 土/9:00～12:00

【休業日】日曜・祝祭日、ホームゲーム開催日、スクール休校日

【個人情報の取り扱いについて】株式会社アルビレックス新潟は、ご提供いただいた個人情報について、スクール事業・サポーターズクラブ事業における会員管理、案内の発送、緊急連絡やスポーツ安全保険加入のために使用いたします。

あなたの近くに12カ所のスクール！

美咲校 (本部事務局) 新潟市中央区美咲町2-1-6	駅南校 新潟市中央区花園1-96-24 NSCレジャリーグランドコート	寺尾校 新潟市西区寺尾958-1 寺尾アットサッカークラブエスリー	白根校 新潟市南区上下道跡1775-1 新潟市白根総合公園	亀田校 新潟市江南区亀田工業団地2307-22 亀田アットサッカークラブ エスリー	アルビレッジ校 新潟市東区新松崎3-309 新潟聖龍スポーツセンター	東新潟校 新潟市東区新松崎3-309	長岡校 長岡市北岡1-53-4 北岡西公園	刈羽・柏崎校 刈羽郡刈羽村大字刈羽4286-2 ひあパークとうりんぼ ビーチビレッジ刈羽	秋葉校 新潟市秋葉区稲島2009 秋葉区総合体育館	南長岡校 長岡市曲新街564-3 長岡市南部体育館	西蒲SC城山校 新潟市西蒲区峰岡580 城山運動公園
---	--	--	--	--	---	------------------------------	------------------------------------	--	--	--	---

トップレベルのサッカースクールがあなたのすぐ近くに。

便利なスクールバスも運行しています! (※運行協力費が必要です)